

につせい農事にゅーす

(第470回) 日星コーポレーション株式会社

アグロ部 (054-263-2860)

1月は年明けから平年より気温が低い日が続きましたが、中旬は気温が高まり冬の寒さの緩みを感じられました。しかし、下旬は強い寒波の襲来により気温が低下し全国的に寒い日が続きました。2月は4日が立春で、暦の上ではもう春ですが、気象庁の1か月季節予報では2月前半は平年に比べ気温の低い状況が続き、春の到来は遅くなりそうです。しかし3月は気温が平年より高くなる予想で、一気に春がやってきそうです。それに伴い、イチゴやトマトなどの施設栽培の作物をはじめ、チャやみかん等の露地作物でも病害虫の活動や発生が増加してくることが予想されます。常日頃から作物の生育を観察し、病害虫の発生を早めに見つけて適切な対策を行いましょう。我が社では、毎年、水稻、茶、みかんの防除作業の目安とするための「防除のポイント」を作成しております。今年も、2026年の防除のポイントを作成しましたので、皆様にご紹介します。

「新防除のポイント」

今月の技術情報は、日星の2026年版防除のポイント(防除暦)の紹介です。水稻では、一発型除草剤や後期除草剤の一部を新しい薬剤に入れ替えました(ゼータジヤガー、1ヶ粒剤、カウシルエナジー、銀河α等)。みかんでは、製造が中止されたり、流通経路が変更になったことにより、いくつかの薬剤が入れ替わりました(スケアフロアブル、テルスター水和剤、ミクトエクストラSC他)。茶では、流通経路の変更により入手が困難になった薬剤(ナリアWDG、ガンバ水和剤、コテツフロアブル、オリーブフロアブル等)を入れ替えました。

「2月の病害虫」

病害虫防除所の2月予報によると、たまねぎでネギアザミウマがやや多、いちごでアザミウマ類、ハダニ類が中遠地域でやや多の予想です。

令和8年1月20日

気象予報 '26-02

東海地方3か月気象予報

名古屋地方気象台発表

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年より少ない確率が40%です。

● 月別の予報

2月：平年に比べ晴れの日が多い予想。平年並または少ない確率ともに40%です。

3月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年より高い確率が50%です。

4月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。

予報の 区分	気 温			降 水 量		
	低い	平年並	高い	少ない	平年並	多い
3 か 月	20	30	50	40	30	30
2 月	30	30	40	40	40	20
3 月	20	30	50	40	30	30
4 月	10	30	60	30	40	30

病害虫発生予察情報(2月予報)

令和 8 年 1 月 27 日

静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

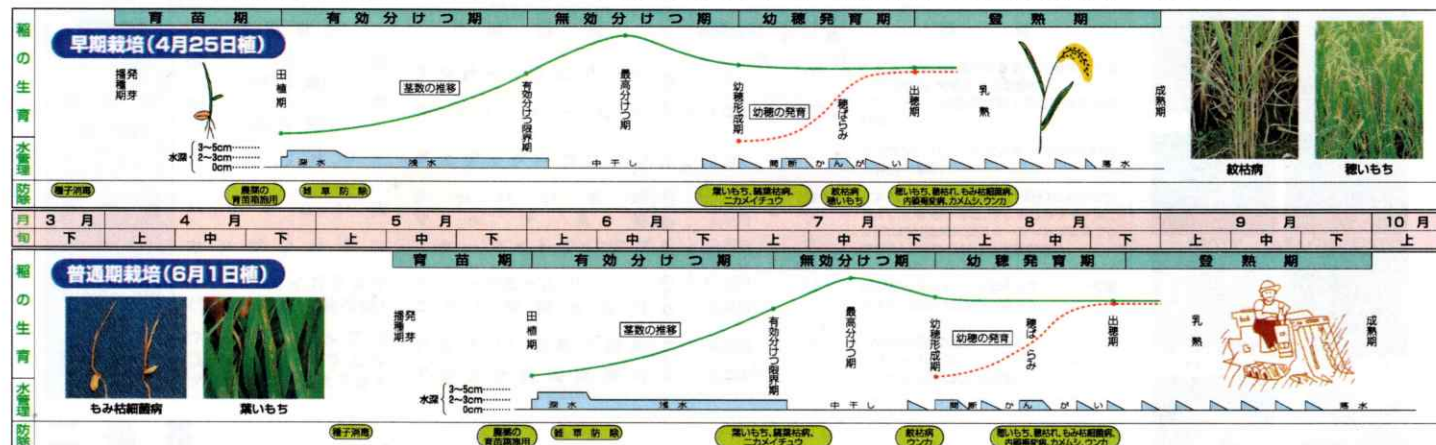
作物名	病害虫名	予 報 (2月の県平均平年値)	予 報 の 根 拠
トマト	葉かび病・ すすかび病	発生量:少 (発病株率6.5%)	1月中下旬発生量:少 (－) 気象予報:気 温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	灰色かび病	発生量:少 (発病株率6.9%)	1月中下旬発生量:少 (－) 気象予報:気 温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	黄化葉巻病	発生量:少 (発病株率1.8%)	1月中下旬発生量:少 (－) コナジラミ類発生量:少 (－) 気象予報:気 温:低い (－)
	コナジラミ類	発生量:少 (寄生株率8.5%)	1月中下旬発生量:少 (－) 気象予報:気 温:低い (－)
たまねぎ	腐敗病	発生量:少 (発病株率1.5%)	1月中旬発生量:少(発生なし) (－) 気象予報:気 温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	灰色腐敗病	発生量:並 (平年発生なし)	1月中旬発生量:並(発生なし) (±) 気象予報:気 温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	ネギアザミウマ	発生量:やや多 (寄生株率27.9%)	1月中旬発生量:やや多 (＋) 気象予報:気 温:低い (－) 降水量:少ない (＋)
レタス (非結球レ タスを除く)	べと病	発生量:やや少 (発病株率1.7%)	1月中旬発生量:少(発生なし) (－) 気象予報:気 温:低い (＋) 降水量:少ない (－)
	斑点細菌病	発生量:やや少 (発病株率3.1%)	1月中旬発生量:少(発生なし) (－) 気象予報:気 温:低い (＋) 降水量:少ない (－)
いちご	灰色かび病	発生量:少 (発病株率0.6%)	1月上旬発生量:少(発生なし) (－) 気象予報:気 温:低い (－) 降水量:少ない (－)
	うどんこ病	発生量:並 (発病株率0.6%)	1月上旬発生量:やや多 (＋) 気象予報:気 温:低い (－)
	炭疽病	発生量:少 (発病株率1.1%)	1月上旬発生量:少 (－) 気象予報:気 温:低い (－)
	アザミウマ類	発生量:少 ただし、中遠:やや多 (寄生株率5.6%)	1月上旬発生量:やや少 (－) ただし、中遠:多 (＋) 気象予報:気 温:低い (－)
	アブラムシ類	発生量:少 (寄生株率1.7%)	1月上旬発生量:少 (－) 気象予報:気 温:低い (－)
	ハダニ類	発生量:やや少 ただし、中遠:やや多 (寄生株率14.1%)	1月上旬発生量:並 (±) ただし、中遠:多 (＋) 防除員からの報告:やや多～多 (＋) 気象予報:気 温:低い (－)

今月の防除(令和 8年 2月)

作物	時期	対象病害虫	使用薬剤	希釈倍数	使用時期	備 考
チャ	上～下	クワシロ	プルートMC	1,000倍	1～3月	散布は一番茶摘採30日前まで1回 散布量は1,000ℓ/10a
		カイガラムシ				
		赤焼病・もち病	フジドーLフロアブル	500倍	14日――	
			又はクプロシールド	1,000倍	前日――	
		カンザワハダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	7日――1	
カンキツ	上～下	ヤノネカイガラムシ ミカンハダニ	ハーベストオイル	60倍 ～80倍	――	寒害をうけやすい園は3月に散布する。
イチゴ	上～下	うどんこ病	アフエットフロアブル	2,000倍	前日-3	モレスタン水和剤(前日-2)3000倍も可。 散布翌日からミツバチの導入が可。 散布翌日からミツバチの導入が可。 散布翌日からミツバチの導入が可。
			又はプロパティフロアブル	3,000倍	前日-3	
		灰色かび病	アフエットフロアブル	2,000倍	前日-3	
		角斑細菌病	コサイド3000	1,000倍	――	
		ハダニ類	コロマイト水和剤	2,000倍	前日-2	
		アザミウマ類	モベントフロアブル	2,000倍	前日-3	
		アブラムシ類	ウララDF	2,000倍	前日-2	
トマト	上～下	灰色かび病	セイビアーフロアブル20	1,000倍	前日-3	アフエットフロアブル2000倍(前日-3)も可。 アミスター、カンタスは灰色かび病にも有効。 バリアード顆粒2000倍(前日-3)も可。 ウララDF2000倍(前日-3)も可。
		葉かび病	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日-4	
			カンタスドライフロアブル	1,000倍	前日-3	
		コナジラミ類	ディアナSC	2,500倍	前日-2	
			ベネビアOD	2,000倍	前日-3	
レタス	上～下	腐敗病	カッパースン水和剤	1,000倍	7日-4	カンタスは菌核病にも有効。 アフエットは灰色かび病にも有効。
			又はスターナ水和剤	2,000倍	7日-2	
		灰色かび病	カンタスドライフロアブル	1,000倍	7日-2	
		菌核病	アフエットフロアブル	2,000倍	前日-3	
		ナモグリバエ	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日-2	
ダイコン	上～下	白さび病	ランマンフロアブル	2,000倍	3日-3	ライメイフロアブル2000倍(7日-4)も可
		コナガ	スピノエース顆粒水和剤	2,500倍	7日-3	
			又は アファーム乳剤	1,000倍	7日-3	
		アブラムシ類	ダントツ水溶剤 又は アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍 2,000倍	7日-2 7日-2	
タマネギ	上～下	白色疫病	ホライズンドライフロアブル	2,500倍	3日-3	
		腐敗病	バリダシン液剤5	500倍	3日-5	
		ネギアザミウマ	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍	14日-2	
			又は ディアナSC	2,500倍	前日-2	

2026年 水稲の病害虫・雑草防除のポイント

—病害虫・雑草の発生に対応した適正防除を省力的にしよう—



使用時期・病害虫名	薬剤名	使用時期・使用量
育苗期(播種前)	イチバン	育苗期をイチバンの500~1,000倍液に瞬間浸漬又は散布する
育苗期(播種後)	タチガレースM液剤	は種時又は発芽後 500~1,000倍 500ml/箱を土壌灌注
育苗期(播種後)	ダコニール1000	は種時 1,000倍 500ml/箱を土壌灌注
育苗期(播種後)	ダコニール1000	は種時 1,000倍 500ml/箱を土壌灌注
育苗期(播種後)	ダコニール1000	は種時 1,000倍 500ml/箱を土壌灌注

除草剤	薬剤名	使用時期	使用量(10a)
初期除草剤	カソロン粒剤4.5	秋冬期	6~15kg
初期除草剤	カソロン粒剤4.5	秋冬期	6~15kg
初期除草剤	カソロン粒剤4.5	秋冬期	6~15kg
初期除草剤	カソロン粒剤4.5	秋冬期	6~15kg
初期除草剤	カソロン粒剤4.5	秋冬期	6~15kg

本田病害虫防除	薬剤名	使用時期	使用量(10a)
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a

本田病害虫防除	薬剤名	使用時期	使用量(10a)
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a
初期除草剤	ゼータプラス200FG	秋冬期	20kg/10a

ドローンは薬剤散布だけでなく、施肥や直播もできて、短時間で効率的です。

2026年 茶病害虫防除のポイント

—病害虫をよく観察して適正防除に努めましょう—

一番茶

防除時期	病害虫名	薬剤名	希釈倍数	摘採までの日数	備考
萌芽前 (2~3月)	赤 も	焼 (感染期) 病	フジドーLフロアブル	500倍	赤焼病は傷口感染のほかに気孔感染をするので、葉裏に薬液を十分散布する。 ブルートMCの散布前後1週間は散布をさける。
	越冬菌	クブローシールド	1,000	前日	
	カンザワハダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000	7	
摘採後 (5上~下)	ハマキムシ類	テッパン液剤	1,000	3	ミルベック乳剤1,000倍(7日)もカンザワハダニに有効である。サビダニやチャノホコリダニの発生時にはスターマイトプラスフロアブル1,000倍(14日)も有効である。
	カンザワハダニ	マツチ乳剤	2,000	7	
		スターマイトフロアブル	2,000	7	
5月中~下旬	クワシロカイガラムシ (ブルートMC無散布園)	アブロードエースフロアブル	1,000	14	展着剤のスカッシュ又はミックスパワーを加用すると薬剤の付着性が高まる。
		コルト顆粒水和剤	2,000	7	
随時防除害虫	ウンカ・スリップス	アルバリン顆粒水溶剤	2,000	7	1番茶の新芽の加害に注意する。 ※アウタラのコミカンアブラムシ、カスミカメに対する希釈倍数は3,000倍
	コミカンアブラムシ ツマグロアオカスミカメ	アウタラ顆粒水溶剤	2,000*	7	



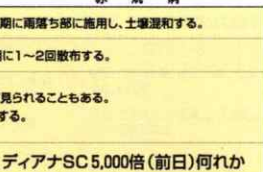
二番茶

萌芽期 開葉期 (5下~6上)	ウンカ	スリップス	カスミカメ	ダントツ水溶剤	何れかと混用する	2,000	7	ヨーバルフロアブルはナガチャコガネ成虫にも有効である。
	チャノホソガ			ヨーバルフロアブル		2,500	7	
	炭疽病	も	病	オンリーワンフロアブル		2,000	7	
摘採後 (6中~7中)	輪斑病			アミスター20フロアブル		2,000	14	機能性展着剤は加用しない。アミスターは二番茶の萌芽期以降、二番茶の摘採14日前までの間の防除もできる。
	ハマキムシ類			サムコルフロアブル10		2,000	3	
	ウンカ・スリップス			オルトラン水和剤		1,000	45	



三番茶(非摘採)・秋冬番(摘採)の茶園

三番茶期 萌芽期	ウンカ・スリップス	ウララD F	混用	1,000	7	ディアナはハマキムシ類・チャノキイロアザミウマにも有効である。
	チャノホソガ・ヨモギエダシク	ディアンサC		5,000	前日	
	新梢枯死症 炭疽病・も	フロンサイドSC	何れか	2,000	14	
生育期	クワシロカイガラムシ	ダコニール1000		700	10	新梢枯死症及び褐色円星病の多発園では萌芽期と2~3葉展開期の2回、剤を替えて散布する。 展着剤のスカッシュ又はミックスパワーを加用すると薬剤の付着性が高まる。
	ウンカ・スリップス	アブロードエースフロアブル		1,000	14	
	炭疽病・も	グレーシア乳剤	混用	2,000	14	
8月上~中旬	褐色円星病	スコア顆粒水和剤		2,000	7	グレーシアはチャノホコリダニ、チャノナガサビダニにも有効である。
	ハマキムシ類	アファーム乳剤		2,000	7	
	ウンカ・スリップス	エクシレルSE		2,000	7	
秋芽期 萌芽期 生育期	ウンカ・スリップス	ハチハチ乳剤		1,000	14	ハチハチ乳剤はチャノホコリダニやチャノナガサビダニにも有効である。 チャノホソガの発生が多いときはマツチ乳剤2,000倍(7日)が有効である。
	炭疽病・も	インダーフロアブル		5,000	7	
	褐色円星病	アグリメック		1,000	7	
秋整枝後	カンザワハダニ	アグリメック		1,000	7	アグリメックはチャノキイロアザミウマ、チャノホソガにも有効である。
	チャノホコリダニ	トクチオン乳剤		1,000	21	
	ハマキムシ類	コサイド3000	何れか	1,000	14	
11月上~中旬 (越冬前)	赤	フジドーLフロアブル	何れか	500	14	赤焼病は傷口感染と気孔感染をするので葉裏まで薬液を十分散布する。台風の前、又は通過後早く散布する。
	焼	ハーベストオイル	何れか	100	※	
	スプレーオイル		何れか	100	※※	
随時防除 病虫害	ナガチャコガネ	フォース粒剤		9g/10a	7	フォースは5月下旬~8月の成虫飛来初期~孵化幼虫期に雨落ち部に施用し、土壌混和する。 11月~1月が越冬・多雨・花が多いと多発する。開花期に1~2回散布する。 被害が多いのは9~10月頃だが、5~6月頃に被害が見られることもある。 8月中旬~下旬頃、被害が見られ始めたら薬剤を散布する。
	灰色かび病	フロンサイドSC		2,000	14	
	マダラカサハラハムシ	エクシレルSE	何れか	2,000	7	
		ダントツ水溶剤	何れか	2,000	7	
		コテツフロアブル	何れか	2,000	7	



(注) ハマキムシ類はチャノハマキ、チャノコカクモンハマキ、ウンカはチャノミドリヒメヨコバイ、スリップスはチャノキイロアザミウマである。

写真出典：マダラカサハラハムシは静岡県病害虫防除所 内山徹氏

チャトゲコナジラミは静岡県植物防疫協会「写真で見える農作物病害虫診断ガイドブック」

2026年 みかん病害虫・雑草防除のポイント

— 病害虫・雑草の発生に対応した適正防除を省力的にしよう —

防除時期	対象病害虫	使用薬剤	希釈倍数	使用基準	備考
12月下旬～ 1月中旬 又は3月	カイガラムシ類 ミカンハダニ	ハーベストオイル	60倍	---	マシン油は十分な散布量を確保する。 かいよう病の越冬病斑が多い場合は3月中旬 (発芽前)に銅水和剤500倍を散布する。た だし、マシン油とは間隔を14日間空ける。
4月中下旬	ミカンハダニ カイガラムシ類 そうか病	スプレーオイル アブロードフロアブル フロンサイドSC	100倍 1,000倍 2,000倍	--- 14日-3 30日-1	冬季にマシン油を散布しなかった園はこの時期 に散布する。 そうか病は展葉期に散布する。
5月中下旬	灰色かび病 そうか病 ケシキスイ コアオハナムグリ	ナティーボフロアブル 又は カナメフロアブル ロディー乳剤	2,000倍 4,000倍 2,000倍	前日-3 前日-3 7日-4	灰色かび病は花弁落下期の初期に防除する。 薬剤は花を中心に散布する。 ケンジャフロアブル1,500倍(7日-3)もそ うか病・灰色かび病に効果がある。 ロディー乳剤はハマキムシ類・シャクトリム シにも効果がある。
6月上旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ ゴマダラカミキリ	ジマンダイセン水和剤 ダントツ水溶剤 又は グレーシアフロアブル	800倍 2,000倍 4,000倍	30日-4 前日-3 7日-2	黒点病菌は枯枝に生存しているため6-7月に 枯枝を剪除し埋没する。 ダントツはコナカイガラムシ類にも効果がある。 アドマイヤー顆粒水和剤もチャノキイロアザ ミウマ及びゴマダラカミキリに効果がある。
下旬	ヤノネカイガラムシ	モベントフロアブル 又は トランスフォームフロアブル	2,000倍 1,000倍	7日-3 前日-3	冬季又は春季にマシン油を散布しなかった園は この時期に散布する。 ヤノネカイガラは2令幼虫最多寄生期に防除する。 モベントやトランスフォームはコミカンアブラ ムシにも効果がある。
7月上旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ	ベンコゼブ水和剤 アグリメック	800倍 2,000倍	30日-4 7日-3	7月株間に白色の光反射シートで被覆すると チャノキイロアザミウマの被害を軽減できる。 炭酸カルシウム微粉末剤を6-7月に散布する とチャノキイロアザミウマに効果がある。
下旬	ミカンハモグリガ ヨモギエダシャク 黒点病 ロウムシ類 チャノキイロアザミウマ	エクシレルSE 又は ミネクトエクストラSC ジマンダイセン水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 キラップフロアブル	5,000倍 10,000倍 800倍 2,000倍 2,000倍	前日-3 21日-1 30日-4 14日-3 21日-2	エクシレルSEはチャノキイロアザミウマやゴ マダラカミキリ成虫にも効果がある。 ミネクトエクストラSCはチャノキイロアザミ ウマ、ミカンサビダニ、ゴマダラカミキリ成虫 にも効果がある。 夏期はミカンハダニの天敵保護につとめるが、 7月にミカンハダニの天敵保護をしたらカネマイトフ ロアブル1,000倍(7日-1)を追加散布する。
8月中下旬	チャノキイロアザミウマ カイガラムシ類 黒点病	アルバリン顆粒水溶剤 又は コルト顆粒水和剤 ベンコゼブ水和剤	2,000倍 3,000倍 800倍	前日-3 前日-3 30日-4	ハチハチフロアブル2,000倍(前日-2)もチャ ノキイロアザミウマに効果がある。 台風の影響があり、かいよう病の発生が心配さ れる場合はバリダシン液剤5の500倍(7日- 4)を散布する。
9月中旬	褐色腐敗病 ミカンハダニ カメムシ類 ハマキムシ類 チャノキイロアザミウマ	ランマンフロアブル 又は レーバフロアブル ダニゲッターフロアブル 又は ダブルフェースフロアブル ロディー乳剤	2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍 2,000倍	前日-3 前日-3 前日-1 7日-1 7日-4	株元に敷ワラや下垂枝の枝切りを行うと地表面 からの褐色腐敗病菌のはね返りを防げる。 ライメイフロアブル3,000倍(前日-3)も効果 がある。 ロディー乳剤はミドリヒメコバエにも効果あり。 ディアナWDG5,000-10,000倍(前日-2) もハマキムシ類に効果がある。
10月中旬～ 以降収穫期 まで	ミカンハダニ 黒点病 貯蔵病害(青かび・緑かび・輪腐 病・灰色かび病・黒腐病・白かび病)	スターマイトフロアブル ナティーボフロアブル ベンレート水和剤 ベルコートフロアブル	2,000倍 1,500倍 4,000倍 1,000倍	7日-1 前日-3 前日-4 前日-3	ハダニが見られるなら防除する。 貯蔵病害にも効果がある。 11月下旬～12月上旬に貯蔵予措を行う。 せん定時に越冬病斑は除去する。
冬季					



薬剤名	使用目的
フィガロン乳剤	病果、熟期促進、浮皮軽減、夏秋 梢伸長抑制
タム水溶剤	摘果、結果母枝の充実、果実促進、 夏秋梢伸長抑制
ジベレリン液剤 ジャスモート液剤	落果防止、浮皮軽減、樹勢維持

薬剤名	使用目的
ファクタント30	10-30ml/10a

○みかんの摘果剤(使用法は、果樹と使用目的により異なる)

薬剤名	使用目的
タッチダウンIQ	250-2,000ml 5日-3
ラウンドアップ マックスロード	200-2,000ml 7日-5
バスタ液剤	300-1,000ml 21日-3
ブリグロックSL	800-2,000ml 前日-5
ゾーバー	300g 60日-1
カーメックスD	100-400g 1回
シンパー	200-300g 7日-2
ハイパーX水和剤	200-300g 60日-1

○みかんの摘果剤(使用法は、果樹と使用目的により異なる)

薬剤名	使用目的
フィガロン乳剤	病果、熟期促進、浮皮軽減、夏秋 梢伸長抑制
タム水溶剤	摘果、結果母枝の充実、果実促進、 夏秋梢伸長抑制
ジベレリン液剤 ジャスモート液剤	落果防止、浮皮軽減、樹勢維持

(注) 写真出典: 害虫は、静岡県植物防疫協会「写真で見える農作物病害虫診断ガイドブック」、
病害と栽培は、元静岡果樹試験場 太田光輝氏撮影による。

ドローンによる薬剤散布は、短時間で効率的です。
ドローンで散布できる薬剤も増えています。



ドローン防除	散布薬剤
散布薬剤	ダントツ水溶剤、モベントフロアブル、 スミチオン乳剤、アグリメック、 アドマイヤーフロアブル、コルト顆粒水和剤、 ダニゲッターフロアブル、ダニコンフロアブル、 エクシレルSE、ミネクトエクストラSC
散布薬剤	ベンレート水和剤、ナティーボフロアブル、 トップジンMノル、ジマンダイセン水和剤、 ベルコートフロアブル、バレード15フロアブル、 ICボルドー68D